

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4161090032		
法人名	社会福祉法人 佐賀キリスト教事業団		
事業所名	グループホーム シオンの園 「くつろ樹」		
所在地	佐賀県佐賀市大和町大字久留間3865-1		
自己評価作成日	平成29年10月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年10月25日	外部評価確定日	平成29年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体施設の経営理念、処遇モットーを軸として、くつろ樹では「家庭的な環境の下で地域住民の方々との交流を図りながら、ご利用者様お一人おひとりが個人の個性やもてる力を大切に、自分らしく当たり前の暮らしを続けられる場所であるよう努力します。」を基本方針として掲げています。また、常に笑顔で接し、ご利用者様やご家族様のご自身の思いや要望等を伝えやすく、安心して楽しい生活を送って頂けるよう、ご利用者様の意思及び人格を尊重し、常にご利用者様の立場に立った支援を目標に努力しているところです。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームシオンの園「くつろ樹」は、周囲にみかん畑が広がり、季節の移ろいが感じられる自然豊かな山郷に立地している。設立31年を迎えた特別養護老人ホームを中心とした法人は、佐賀県の認知症介護研修の受託施設として、県の認知症介護の質の向上のために取り組んできた歴史と実績がある。またキリスト教事業団の運営であり、『愛』の精神でお年寄りを敬い愛します。という法人の経営理念に基づき、「利用者の人格を尊重し、立場に立った支援」がこのホームの基本姿勢となり、職員が一丸となり、チームケアを実践している。ホームは設立15年になるが、広く明るい施設環境と、職員の元気で明るい笑顔がマッチして、利用者や家族からの信頼が厚い。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の部会開催時、経営理念、処遇モットーを全員で唱和し実践する事を確認し合っている。	グループホーム設立時に、法人の経営理念に沿ったホーム独自の理念を掲げた。年度初めに理念を全職員で共有する機会があり、実践につなげている。毎月の会議でも、「利用者中心」と「個別の関わり」を重点項目として、日常のケアを振り返り、意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体施設と共に自治会、老人会の方々の協力を得て、夏祭り等を開催。また、地区行事に案内を頂いた際には、積極的に参加を予定。	法人が一括して自治会に加入し、地区との連絡担当者を配置しており、担当者を通じて地域行事(浮立、ひとり暮らしの高齢者との集い等)にホームも参加している。日頃から近隣を散歩し挨拶を交わしたり、みかん農家の方からみかんをいただくなど日常的な交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	みかん倶楽部と称し地域の公民館等に出向き、事業所の紹介や健康体操等の紹介を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催中。行事報告、予定、ホーム内での出来事、利用者様、職員の動向等を報告し、ご家族、民生委員様のご意見や質問について話し合いサービスの向上に活かす努力をしている。	会議を定期的に行っている。ホームからの現況報告や情報交換が主ではあるが、地域の民生委員からの積極的な意見は、地区の情報を得られ交流につながっている。法人職員が地域包括支援センターに出向しており、情報を得ると共に研修の場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において情報交換を行っており、情報交換や意見交換を行う事で、協力関係を築いている。	町主催の地域密着型の会議や研修に参加し、ケース検討が行われている。また、町の介護予防事業として地域住民にホームの紹介や体操を実施するなど啓発活動を行い、学生の職場体験を受け入れるなど協力関係を構築するよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束について正しい理解ができるよう、園内研修会等を開催しており、正しい理解のもと身体拘束をしないケアに取り組んでいる。8月に部署内での研修を実施。	身体拘束廃止マニュアルを作成し、法人内や事業所での研修に参加し、拘束のないケアを実践している。「虐待の芽チェックリスト」を使用し、職員が互いのケアを注意し合い適切なケアに努めている。連絡ノートでリスクを共有し、安全面への配慮もしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	8月に部署内での勉強会を行い、自己の振り返りを行わない、常に意識を持ちながら日々の業務を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加はありませんが、パンフレットの回覧等により知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用契約書、重要事項の十分な説明及び退居時にも十分な説明、話し合いの場を設け、ご理解、納得いただけるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議やカンファレンス会議に参加していただき、ご意見を尋ねる機会を設けている。	運営推進会議に5～6名の家族参加があり、意見を聞く機会となっている。また、日頃の面会時にも積極的に近況報告を行い、意向や要望等を気軽に話せるよう配慮すると共に新採職員の紹介をする等関係を築くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1～2回の個人面談や毎月の部会等での意見、提案を基に上申している。	管理者は日頃より職員が意見を言いやすいよう雰囲気作りに努め、会議では活発な意見交換が行われている。職員からの気づきや要望等は連絡ノートに記入し共有している。毎年、人事評価の機会に個人面談を実施しており、勤務体制等の相談も受けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課及び、福利厚生にも力を入れて働きやすい環境づくりに努められている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の教育訓練計画に基づき、職員の研修参加の機会を設け、知識、技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会を通じて、同業者との交流の機会を持ち、他施設の状況や情報を収集し自施設のサービス向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者により相談から利用に至るまで、十分に配慮している。施設内の見学を含め、管理者による面談等を通じ、本人様が安心してご利用していただけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者により相談から利用に至るまで、十分に配慮している。施設内の見学を含め、管理者による面談等を通じ、本人様が安心してご利用していただけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ケアマネにて十分に配慮されている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の注ぎ分けや後片付け、洗濯物干しや洗濯たたみ、掃除等の家事を一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やカンファレンス会議、運営推進会議等を通じ、より良い信頼関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の馴染みの方々の面会時は、居室へ案内するなど、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。	季節に応じて年賀状や、はがきを書いてもらったり、孫さんからの手紙に返事を出す等、関係が継続するよう支援をしている。ホームは日頃から個別の関わりを大切に考えており、馴染みの関係においても、個々の希望を把握し支援している。墓参りやお寺参りは、家族の協力を得て外出されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を職員全員が共有し、ご利用者お一人お一人の個性を大切にしながら、席順の配慮やトラブルになる前の早めの対応を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人全体の中での取り組みを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	カンファレンス会議や日々の生活の中で、常に本人様の希望や要望を聞き出すよう努力している。また、いつでも利用者様主体であることを忘れずに取り組んでいる。	ホームが大切にしていることに「利用者中心」と「個別の関わり」がある。日常のケアの中で意思の疎通が困難でも、表情や言葉で意向を把握するように努めている。食事を一緒に摂りながら、入浴介護しながら、少しの時間でも会話をするようにしている。毎月の会議やモニタリングの際には、職員にも伝え、意識を高めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント時やカンファレンス会議、日常の会話、面会時の会話を通じ、生活歴や今までの経過を把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の現状を把握できるよう、毎月の部会等で話し合いを行っており、また、急な変化についても連絡ノート等により職員間の連絡を密にとり、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にサービス担当者会議を開催し、半年に一度は、家族、ご利用者に同席して頂き、意見や要望等を反映した計画作成に努めている。	介護計画作成時には、ホームの理念に照らし、職員が方向性を一致して作成するようにしている。計画は本人や家族の意向が反映されており、個性が窺えるものである。定期的に家族も同席され担当者会議が開催され、モニタリング、評価等一連の流れが丁寧に記録されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況は個別のケース記録に記入。また、毎月の部会においてもケアプランの実施状況等を協議しながら実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、本人様やご家族の要望に応じ、対応できる事については臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回以上の消防避難訓練を行っています。夏祭りでは地域のボランティアや自治体等の協力を得て開催しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族の希望があれば、協力医へ主治医を変更しておりますが、以前からの主治医を希望される利用者様に関しては、ご家族を通じ密に情報交換を行うよう努めている。	本人と家族が希望される医療施設へ受診できるよう支援している。これまでのかかりつけ医を受診される場合は、家族へ付き添いをお願いしているが、健康管理票に現状を記入し、状態を報告している。職員が付き添いをする場合は、その都度家族へ結果報告をしている。歯科の往診は特養にて受診されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専従の看護師にて日常の健康管理を行い、急な対応に関しては、法人の医務看護課職員の協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は定期的に病状伺いを行い、担当医、担当看護師、ご家族との情報交換を行いながら、早期退院に向けての話し合いの場を設けていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針及び看取りに関する指針を定めており、ご家族と十分に話し合いを行い方針を共有し、協力医療機関と共に支援していく体制づくりに努めている。	重度化や看取りに関する指針を作成し、入居時に説明し、同意を得ている。症状の段階に応じて家族、医療機関と連携しながら、事業所ですることを支援している。協力医療機関からの往診もしてもらっている。職員の意識を高め、理解を得るために研修を実施している。今年1名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応できるよう周知徹底を行っており、その場での実践に備える努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災自動通報装置、消火器、スプリンクラーを設置。また、毎年消防計画を作成し、昼間、夜間帯での定期的な消防訓練を実施している。	消防署に指導を受け、定期的に火災及び他災害時の避難訓練をしている。特養本部と一緒に実施し、近隣方へも訓練の案内及び協力依頼をしているが、実際に協力を受けるまでに至っていない。しかし災害時には、職員宅へ災害メールが発信される為、近隣の職員が駆け付ける準備がある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会、勉強会を通じ、常に個人の尊厳を重視した対応を心掛けている。	利用者の人格を尊重し、立場に立った支援がホームの基本姿勢であり、施設長は会議の度に、人権の尊重に関する内容を伝えており、職員は共有し、実践に努めている。言葉遣いの自己チェック表により、自身の関わりを振替っている。管理者が日常のケアの中で指導することもある。全体会議の折には、牧師さんの講話もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意思を尊重し自己決定の存続が図れるような対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様主体の生活を心がけ、利用者様の希望に添った支援となるよう柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や化粧など本人様の意思を尊重しながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の持てる力を活かしていただけるよう、おかつの注ぎ分け、後片付けや食器拭き等を職員と共に、昼食は職員も同じテーブルでとっている。	今年度は「できることをしてもらおう」という目標を立て、利用者の力を発揮できるよう食事の準備や後片づけを手伝ってもらっている。個々の介護計画に反映させ、実践につなげている。昼食は本部の厨房で料理されるが、朝食と夕食はホームで、利用者の好みや季節感に配慮しながらメニューを決めている。職員も同じテーブルで介護をしながら一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態を把握して、個々に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行える利用者様には言葉掛けを行い、介助が必要な方には個人に応じた対応を心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時の排泄案内や行動を察知しての排泄案内を行い、また、自立の利用者様に関してトイレ内の確認を行う事で、利用者様の排泄状況を把握しながら、その時々状況に応じた支援を行っている。	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。各居室にトイレが設置され、日中もリハビリを目的として自分の部屋のトイレを使用されるなど、意向に合わせた支援をしている。紙パンツを布パンツに変えることができた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品のおやつを取り入れ、また、運動への働きかけを行い、出来る限り自然排便となるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴は実施できる状態。現在は午後入浴を実施していますが、その時々利用者様の状況や入浴希望に副った対応を心掛けている。	入浴は隔日と計画をしているが、利用者の希望や体調により、臨機応変に対応している。入浴を拒まれる方には職員が変わったり、時間を置いたり、本人の気持ちを尊重しながら誘導を工夫し入って頂いている。職員と会話を楽しみながらゆっくりした楽しみの時間でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態や日中の様子等、状態把握を行い、ソファーに寛いでいただいたり、場合によっては自室での静養を勧めるなどの対応を行い、また、できるだけ日中の活性化を図りながら、安眠に繋がるよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の説明書は、いつでも閲覧できる状態。内服薬変更時の利用者様の症状の変化については、主治医やご家族への情報提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、役割を持っていただける支援や、遣り甲斐や喜びを感じていただきながら生活していただけるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って外出できるよう努めている。	地域の行事に参加したり、季節に応じてドライブに出かける等、利用者の希望を聞きながら、外出支援に努めている。個別の墓参りや自宅までの外出などは家族の協力を受けながら出かけられている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持し使えるように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいときはその都度対応しており、手紙やハガキが届いた時は、返事を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光は、季節やその日の天候によって障子の開け閉め等の配慮を行っている。室内の温度、湿度に関しては、1日3回のチェックを行い、快適に過ごしていただけるよう配慮している。	広いリビングは天井が高く明るい。大きい窓から季節の移ろいを感じることができ、落ち着いた環境である。ソファやテーブルは家庭的で、テレビを見たり、職員や利用者同士でおしゃべりをするなど思い思いに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間のテーブルや周辺のソファ、台所側の寛ぎスペース、暖かい日にはウッドデッキなど、お好きな場所で思い思いに過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた物品や好みの身の回りの品の持ち込みについて説明を行い、ご家族で準備していただいている。	居室には、タンス、椅子等使い慣れたものを持参してもらっている。手芸が得意な方は、自慢の作品など飾ったり、また家族の写真を飾るなど、個性的で、くつろげる空間である。お茶碗、湯呑み、箸、マグカップなどは好みの物を準備していただいている。個室にトイレが設置されているが、ボランティアの方に毎日掃除をしていただき、臭いもなく清潔感がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じた対応を心がけ、安全かつ自立した生活が送れるよう努力している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない